

「歴史講座」を担当する、人文学部歴史学科桃崎祐輔教授からのコメント

地域貢献や地域連携について、我々は市民と共に歩き、探し、共に考え、教えていただいたことも盛り込んで生み出した研究成果を、真っ先に市民に還元するという強い信念でやってきました。

最初の連携事業では、福岡市・城南区役所と協力し、障害を乗り越えながら進めていきましたが、城南区が思った以上に広く、小回りがきかないという問題、私と亀崎さん（民俗学）の二人では市民参画の継続にはマンパワーが足りないという問題がありました。

その過程で区内の片江・堤・長尾・田島・別府等々の公民館からいただいた歴史講座のお話に応えるうち、区より小さな校区ぐらいの規模での活動が良さそうだということで、福岡大学から一番近い片江公民館での連続講座が実現しました。特に 2018 年度には、当時の太田智助手が中心となって、市民参画の調査をすすめ、所在が分からなくなっていた幕末の火薬倉庫の場所をつきとめる快挙を成し遂げ、1日限りの展示会も実現しました。

柏原とのお付き合いは、考古学実習で測量する手頃な古墳を探していたこと、謎の須恵器窯の探索がきっかけです。地主さんの許可をいただき雑木や竹を伐採し、古墳や窯跡を測量して学生と一緒に、やまもも会館（柏原にある地域集会所）で報告会を行いました。これが柏原公民館の歴史講座に発展し、学部生が前座、大学院生や教員が本講座というスタイルが確立し、そこでの学習を踏まえて市民参加の調査や発掘を実現しました。楽しいバーベキュー大会なども企画していただきました。その中で、市民と共に古墳の発掘調査や見学会を実施し、さらに福岡市では珍しい須恵器窯や、全国的に貴重な7世紀の製鉄遺跡、幕末の火薬工場の遺品を発見し、公民館講座の内容を国際学会でも発表するなど、多くの学術的成果がありました。

（特段アピールしたわけではありませんが）噂を聞いて野球解説者の池田親興さんや武田鉄矢さんも取材に来られたので地元の方々が喜ばれました。ここで育った学生が、福岡市・北九州市・宗像市・うきは市・大分県等に就職し、地域の文化財調査や保存を担っています。

2020年上半期はコロナ自粛が危ぶまれましたが、緊急事態が解除された6月末、考古学研究室に着任された古澤義久先生とともに、新たな歩みを始めました。7月の片江公民館講座では受講者と貝殻で腕輪を作るワークショップを行う予定です。